



# みくびだより

発行 御首神社社務所

## 御挨拶

拜啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

本年は第六十二回神宮式年遷宮の年であり、内宮は十月二日、外宮は十月五日に遷御の儀が厳かに執り行われました事は、この上なく目出度く喜ばしいことでありますと共に、これより進められます両宮の別宮併せて十四社の遷御の諸祭儀無事完遂を願うばかりでございます。

天皇陛下におかせられましたは、遷御の儀と時を同じく、内宮・外宮それぞれの出御の時刻に合わせて皇居内の神嘉殿南庭において遥拝の儀を執り行われ、庭上下御と言われます最も鄭重な作法で遷御の儀をご遥拝遊ばされました。

また、御首神社崇敬会では、今年八月三十日・三十一日の両日に亘り「お白石持ち行事奉仕の旅」に出掛けて参りました。神宮では、桧の香りが漂う真新しい御正宮の目前まで歩み寄り、一同心を込めて御敷地内にお白石をご奉獻いたし、誇り高き伝統を肌で感じ入りました。詳しくは、報告記事（次頁）をご覧頂けましたら幸いと存じます。

さて、来年の御首神社崇敬会伊勢神宮参拝研修旅行は、古殿地の拝観を予定しております都合上、三月中旬の平日に執り行うことになりましたのでご報告申し上げます。会員の皆様には、二月初旬にご案内を差し上げますので、多数のご参加をお待ちいたしております。

十月二十日、皇后陛下におかせられましたは、目出度く地久節（傘寿のお誕生日）をお迎えになられました。一国民として心よりお慶び申し上げる次第でございます。

現在、新しい年を清々しく迎えられますように、職員一同万全の正月準備を勤めております。皆様方には、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

# 第六十二回神宮式年遷宮 お白石持ち行事奉仕の旅

伊勢の神宮では、二十年に一度の式年遷宮の一環である「遷御の儀」が、十月二日（内宮）・五日（外宮）に斎行されました。

御首神社崇敬会では、平成十八年に設立二十周年行事として、「お木曳き行事」に奉仕させて頂いたのに続き、今年八月三十日・三十一日には、「お白石持ち行事」に一日神領民としてご奉仕させて頂き戴きました。これより記録写真をお楽しみ下さい。

## 【第一日目】天候晴

- 十時 神社出発
- 十一時 昼食
- 十四時 浜参宮（二見浦）
- 十六時 散策
- 内宮
- おはらい町
- おかげ横町
- 十八時 夕食（とうふや）
- 二十時 宿泊（伊勢市内）



〈無垢塩の祓い〉



〈綱出し 出発！〉

## 【第二日目】天候晴

- 七時半 ホテル出発
- 八時 結団式
- 綱出し
- 奉曳開始
- 九時 外宮到着
- 手水・お祓い
- 御敷地に参入
- お白石ご奉献
- 十時 おもてなし会場
- 十時半 解団式
- 十一時 昼食・入浴（千の杜）
- 十六時 神社着



〈エンヤー！ エンヤー！心を一つに合わせ手綱を引きます〉



〈大事に大事に  
白布に包んで〉



〈手水で清めお白石を受けます〉



〈新正殿を目前にご奉献〉



〈大役を無事務め 一安心〉

〈お白石奉献後の  
集合写真〉



この度のお白石持ち行事におきましては、厳しい猛暑の中参加者一同揃ってお白石を御敷地内にご奉献出来ました事は誠に喜ばしく、大神様のお護りによるものと感謝に堪えません。

また、式年遷宮と言う我が国固有の伝統文化を、国民として次の世代に連綿と継承して行かなければならないことを、強く心に刻む旅となりましたことは言うまでもありません。

『海幸彦と山幸彦』その一 『古事記』



塩稚神は「この海に船を浮かべて流れて行くよ、海の神で  
綿津見神の宮殿に着きます。そこで、綿津見神の娘の豊玉  
叱売にお会いになるの良いでしょ。」「と言いました。山幸  
彦は船に乗り、流れのまきで綿津見神の宮殿に行きました。  
しかし、門が閉まっていた中に入れません。これは困った  
と、門の側の木に登って窓を覗いてみると、木の下の井戸入  
り豊玉叱売の使者が水を汲みにやってきました。山幸彦はこれ  
はチャンスだと自分の首飾りを取って、水を汲んだ桶へ投げ

入れたのです。使いの者は自分の桶にそこから首飾りが飛  
んできたので、ビックリして慌てて帰ってしまいました。

使者は豊玉叱売に水を渡す前に首飾りを取りましたので  
が、桶にくっついて全然取れません。仕方がないので、理由  
を話してそのまき豊玉叱売に持って行きました。

豊玉叱売は「あら、首飾りが突然桶の中へ落ちてきたの？  
外に誰か居るのかしら？」「と気になり外をチラッと見まし  
た。外には立派な神(山幸彦)が居るではありませんか！  
そして二人は目が合い、その瞬間に恋に落ちてしまいました。

豊玉叱売はすぐに綿津見神に「お父様、外に素敵な方が居  
るー私、一目惚れしてしまいました。」「と報告すると、綿津  
見神は「これこれ。」「と外を覗きました。綿津見神は驚いて

「おーめの方は瀬織津の命さまのお子様、火遠理命さまで  
はないかー皆のもの、急いででもなこの準備をするのだー！  
」と言いました。

山幸彦は宮殿に呼ばれ、たぐさのい馳走を振舞われまし  
た。そして綿津見神に「火遠理命さま、突然ですがどうが私  
の娘と結婚してくださいますか？」「と言われ「実は私も豊





玉叱売たまひめに一目惚れをしました。喜んで受けましよう。「と答える。もてなしの会はそのまき結婚式になりました。

山幸彦やまゆきひこは結婚の嬉しさに、釣針の事をすっかり忘れて宮殿で三年間も暮らしてしましました。そんなある日、釣針の事を思い出して大きなため息をうくと、綿津見神わたつみのかみが「あや？そんな大きなため息は初めて見ました。何力悩み事ですか？」と心配しました。山幸彦やまゆきひこは無くした釣針の事や意地悪な兄の事を詳しく話しました。

それを聞いた綿津見神わたつみのかみは「そいえば鯛が、ずっと前から喉が痛いと言っていたぞ。おい、鯛をここへ呼びなさい。」と鯛を呼んで喉を調べました。すると「一本の釣針が刺さっていたのです。それは正に海幸彦の針でした。」

綿津見神わたつみのかみは「火遠理命ほをりのみことさま、見わかりましたよ！早速火照命ほでりのみことさまへお返し下さい。」と行って釣針を山幸彦に渡ししました。そして「意地悪な火照命ほでりのみことさまに仕返しをしませんか？」と耳打ちをしたのです。



◎おとうさん、おかあさん、おいちゃん、おばあちゃんへ！

古来より伝わる神話を、お子さまやお孫さまと一緒に読んでいただき、子供たちの情操教育の一助となりましたら幸いです。

### 祭事報告

#### ▼夏越大祓

八月四日午後三時齋行  
 猛暑の中多数のご参列を頂き、  
 夏越大祓の神事を齋行致しました。  
 皆様方が知らず知らずに犯した  
 罪・穢を託されました人形は、祓  
 い清められた後、忌火を以てお焚  
 き上げいたし、続いてお祓い諸役  
 を先頭に齋主以下奉仕祭員・総代  
 参列者の順に左右左と茅の輪をく  
 ぐり神事を納めました。



#### ▼崇敬会大祭

十一月三日午後二時齋行  
 崇敬会大祭は、御首の大神様に  
 無病息災や家内安全等の御守護を  
 戴く、崇敬会会員のための一年に  
 一度の大祭であります。

### 御首神社ホームページ 神職への質問Q&A

**問** 御首神社さんで、病氣平癒の御祈禱をしたいのですが、遠方のため伺えません。何か良い方法はございますか？

**答** 郵便による御祈禱の申込がございませぬ。書留にて祈禱初穂料と祈禱をお受けになる方のお名前・ご住所・電話番号・病名(煩われている部分可)・生年月日・祈禱のお下がりの送付先を記入した用紙を同封の上神社に郵送下さい。到着次第ご祈禱をお伝えいたし、お下がりをお送りします。

当日は、御参列いただいた皆様のお名前を大神様にご報告申し上げます、最後にお一人づつ御神前に金幣串を奉って拝礼頂きました。

### 諸祭典(抜粋)

- ▼ 月次祭
- ▼ 農休み祭
- ▼ 西宮神社例祭
- ▼ 末廣稲荷神社例祭
- ▼ 神明神社例祭
- ▼ 新嘗祭

**問** 入院しております父のご祈禱を、私が神社に伺い替わってお願いする事は出来ますか？

**答** 本人の代わりに代理の方が御祈禱をお受けになられる事はよくございます。ご病状によりましては、ご本人様のご来社が叶わないことも多々ございます。

御祈禱受付時には、上記の問答同様に、ご本人に関する事をお伺いしますので、ご用意の上来社頂きたくお願い申し上げます。

その他、不明な点や詳細に関しましては、お電話やメールにてお気軽にお尋ね下さいませようご案内申し上げます。

### 新入職員挨拶

この夏より御首神社で、ご奉仕をさせて頂いたたく事になりました高田賢司です。まだまだ勉強不足の身ではございますが、日々の神奉仕に務めてまいりますので、ご指導賜りたくお願い申し上げます。



高田賢司

### 崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか：：」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて頂きます。

### 会員の特典(抜粋)

- ・ 入会報告祭の実施
- ・ 誕生特別祈禱の実施及び祈禱神符の授与
- ・ 主要祭典のご案内
- ・ 昇殿参拝

### 会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

### お問い合わせ先

神社社務所まで  
 ○五八四一九一三七〇〇

# 幟(のぼり)について

偏に幟(のぼり)と申しましても、色々な形態がございます。

起源は平安時代と言われ、戦時の敵味方を区別するために造られたのが始まりとされております。

その形状は、長い布の短辺に木を通して紐で吊り上げて風になびかせる、丈の高い「流れ旗」(神幸式に用いられる旗の類はこの形)であり、その後改良が施され、布地の長辺の一方と上辺のあわせてふたつの辺を旗竿に結びつける現在の幟旗が登場します。

神社の幟は、「祭」を周知するために臨時に掲揚される幟と神恩感謝・御神徳拝受を願ひ奉納されました幟がございます。前者の幟は、大変大きな幟になりますので、遠くからも目視が可能です。

当社の大きな幟は、一年中参道に掲げられております。特大幟は例大祭時に祭礼用の幟に変更されますが、常に大きな幟が立ち並ぶお社は希であります。当社所有の古写真には、大幟の存在が確認されますが、それ以前につきましては、知り得る者がおりません。

# 崇敬会からのご奉納

一、御首神社鳥居前特大幟



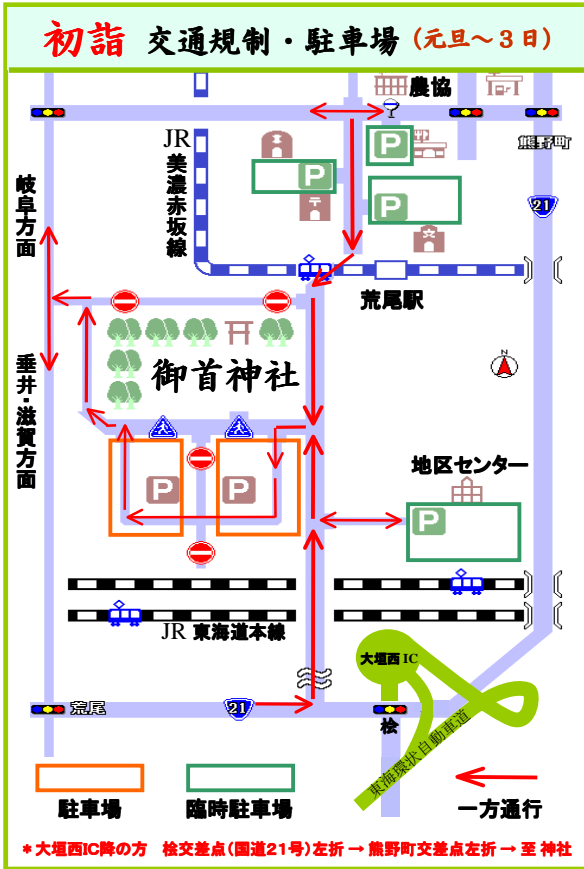
一、末廣稲荷神社参道小幟



以上、ありがとうございました。

現在、鳥居前には崇敬会の特大幟一对(一年間)、参道には大幟七対(一年間)、末廣稲荷神社の参道には小幟三十対(半年間)余りが掲揚され、奉納者は個人・家族・会社など様々でございます。  
\*( )は、掲揚期間です。

\*各種幟のご奉納につきましては、予約待ちの幟、新年に合わせて受付中の幟もございますので、お気軽に社務所にお尋ね下さいませ。



# 八方塞がりの皆さん

**平成26年 八方塞がり早見表**

方位図

北	17年生
北東	26年生
東	35年生
南東	44年生
南	53年生
南西	62年生
西	8年生
北西	17年生

高島暦参考

ご祈禱をお受けになり  
健康な毎日を  
過ごしましょう

**平成26年 年祝い早見表 (数之歳)**

古稀	70歳	昭和 20 年生
喜寿	77歳	昭和 13 年生
傘寿	80歳	昭和 10 年生
米寿	88歳	昭和 2 年生
卒寿	90歳	大正 14 年生
白寿	99歳	大正 5 年生

# 年祝いの皆さん



祭事案内

▼年越大祓

十二月三十日午後三時  
拜殿前にて齋行。半年間の無意識についた罪と穢れを祓い清め、清々しく新年を迎える神事。

参列可

▼元旦祭

一月一日午前零時  
新しい年の初めに、世界の恒久平和と国の隆昌を願います。

見学可

▼左義長

一月十五日午前十時  
古い御神符や御守り、正月飾りや縁起物等を炊きあげる神事。

参列可

▼浄火祭

一月三日午前十時  
皆様が奉納された祈願絵馬や帽子・金幣串、ご自宅で祀られました紅白串を心願成就を願ってお焚き上げる神事。

参列可

▼祈年祭

二月十六日午後三時  
五穀豊穰、皇室の御安泰、産業発展・国家の安泰を願います。

見学可

▼御鋏神社例祭

三月十七日  
豊受大御神をお祀りする本殿の北東に鎮座する境内社の例祭。

参列可

～予告案内～

御首神社崇敬会  
伊勢神宮参拝研修旅行

期日

平成26年3月中旬

- ・ご案内 来年2月初旬
- ・「平日実施の予定」

▼例大祭

四月二日午後三時  
年に一度の大祭、献幣使をお迎へし厳かに齋行されます。境内には屋台が立ち並び、舞台では演芸が催されます。

参列可

▼南宮神社例祭

五月四日  
南宮大社の御祭神の御分霊をお祀りする東の相殿社の例祭。

参列可

▼お田植え祭

六月初旬  
祭典後、境内神饌田にて齋主の手により早苗を植え付けます。

見学可

▼農休み祭

六月中旬  
無事に田植えが済みました事に感謝し、今後の早苗の無事生育を願います。

見学可

新年 授与品・縁起物



祈願絵馬 さくら鈴 干支土鈴

\*他にも多数の授与品・縁起物がございます\*

正月御供 鏡餅料

受付中です

正月御供 (一月末まで受付)  
・酒類・お餅・米・野菜  
・果物・初穂料など  
鏡餅料 (十二月末まで受付)  
・正月三日間、鏡餅を御神前にお供えいたします。毎年



多くの皆様からのお申込がございます。千円以上にてお申込願います。

\*お下がりが授与されます。  
\*郵送・書留等による申込受付中。詳細は社務所まで。

平成26年 厄年表 (数え歳)

	歳	前厄	本厄	後厄		歳	前厄	本厄	後厄
男	61歳	昭和30年生	昭和29年生	昭和28年生	女	37歳	昭和54年生	昭和53年生	昭和52年生
	42歳	昭和49年生	昭和48年生	昭和47年生		33歳	昭和58年生	昭和57年生	昭和56年生
	25歳	平成3年生	平成2年生	平成元年生		19歳	平成9年生	平成8年生	平成7年生

編集後記  
今号は、「御首神社崇敬会」お白石持ち行事奉仕の旅の特集を増員しております。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一八三の二  
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇  
Eメール svannusy@nikubi.or.jp